

## 安全データシート (SDS)

### 1 化学品及び会社情報

化学品の名称	
製品名	モノタロウ エンジンオイル 10W-30 SM/CF
会社情報	
会社名	株式会社 MonotaRO
担当部署	商品お問い合わせ窓口
住所	〒660-0876 兵庫県尼崎市竹谷町 2-183 リベル 3F
電話番号	0120-443-509
Fax 番号	0120-289-888
緊急連絡電話番号	所在地と同じ
整理番号	M180621

推奨用途及び使用上の制限  
エンジンオイル (10W30 SM、)

### 2 危険有害性の要約

#### GHS 分類

物理化学的危険性	分類できない
健康に対する有害性	分類できない
環境に対する有害性	分類できない

#### GHS ラベル要素

絵表示	該当しない
注意喚起語	該当しない
危険有害性情報	該当しない
注意書き	該当しない

#### 他の危険有害性

汚染された表面は非常に滑りやすいので注意すること。

#### 重要な徴候及び想定される非常事態の概要

情報なし

### 3 組成及び成分情報

#### 化学物質・混合物の区別

混合物

組成及び成分情報

**MONOTARO 0W20 SM**

化学名又は一般名	CAS 番号	官報公示 整理番号	濃度又は濃度範囲 (wt%)
水素処理重パラフィン系 石油留分	64742-54-7	-	80.0～85.0
添加剤	-	-	5.0～10.0
その他 (1)	-	-	5.0～10.0
その他 (2)	-	-	0.1～0.5

**MONOTARO 5W30 SM**

化学名又は一般名	CAS 番号	官報公示 整理番号	濃度又は濃度範囲 (wt%)
水素処理重パラフィン系 石油留分	64742-54-7	-	80.0～90.0
添加剤 (1)	-	-	5.0～10.0
添加剤 (2)	-	-	5.0～10.0
その他 (1)	-	-	0.1～0.5
その他 (2)	-	-	0.1～0.5

**MONOTARO 5W30 SN**

化学名又は一般名	CAS 番号	官報公示 整理番号	濃度又は濃度範囲 (wt%)
水素処理重パラフィン系 石油留分	64742-54-7	-	80.0～90.0
添加剤 (1)	-	-	5.0～10.0
添加剤 (2)	-	-	5.0～10.0
その他 (1)	-	-	0.1～0.5
その他 (2)	-	-	0.1～0.5

**MONOTARO 10W30 SM**

化学名又は一般名	CAS 番号	官報公示 整理番号	濃度又は濃度範囲 (wt%)
水素処理重パラフィン系 石油留分	64742-54-7	-	88.0～91.75
添加剤	-	-	8.0～10.5
その他 (1)	-	-	0.15～1.0
その他 (2)	-	-	0.1～0.5

**MONOTARO 10W30 SN**

化学名又は一般名	CAS 番号	官報公示 整理番号	濃度又は濃度範囲 (wt%)
水素処理重パラフィン系 石油留分	64742-54-7	-	88.0～91.75
添加剤	-	-	8.0～10.5
その他 (1)	-	-	0.15～1.0
その他 (2)	-	-	0.1～0.5

## MONOTARO 80W90

化学名又は一般名	CAS 番号	官報公示 整理番号	濃度又は濃度範囲 (wt%)
水素処理重パラフィン系 石油留分	64742-54-7	-	95.0～98.0
添加剤	-	-	2.0～7.0
その他 (1)	-	-	0.01～0.1

## 4 応急措置

### ばく露経路による応急措置

吸入した場合	新鮮な空気の場所に移動させ、呼吸しやすい体勢で休ませること。気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。症状が続く場合には、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	石鹼と水で洗う、又は皮膚用洗浄剤を用いること。汚染された衣類や靴は脱ぎ、再使用前に洗濯すること。症状が現れた場合には、医師の診断を受けること。
眼に入った場合	直ちに大量の水で 15～20 分間注意深く洗うこと。まぶたの下まで洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。医師の診断を受けること。
飲み込んだ場合	無理に吐かせないこと。救急治療を受けること。迅速な対応が必要となる。

### 予想される急性症状

皮膚を脱脂する。乾燥や痛み、ひび割れを引き起こすおそれがある。

### 遅発性症状の最も重要な徴候症状

情報なし

### 応急措置をする者の保護

救助者は、状況に応じて適切な眼、皮膚の保護具を着用する。  
マウス・ツー・マウス人工呼吸法は危険である。

### 医師に対する特別な注意事項

情報なし

## 5 火災時の措置

### 適切な消火剤

粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素を使用する。それ以外では土や砂が使用できる。

### 使ってはならない消火剤

火災が周辺に広がる恐れがあるため、直接の棒状注水を避ける。

### 特有の危険有害性

火災等の場合は、毒性の強い分解生成物（二酸化炭素、一酸化炭素）が発生する可能性がある。  
火災や加熱により、圧力が上昇して容器が爆発するおそれがある。

## 特有の消火方法

火元への燃焼源を断ち、消火剤を使用して消火する。  
延焼の恐れのないよう水スプレーで周囲のタンク、建物等の冷却をする。  
消火活動は風上から行う。  
火災場所の周辺には関係者以外の立ち入りを規制する。  
危険でなければ火災区域から容器を移動する。

## 消火を行う者の保護

消火作業の際は、適切な自給式の呼吸器用保護具、眼や皮膚を保護する防護服（耐熱性）を着用する。

---

## 6 漏出時の措置

---

### 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

関係者以外の立ち入りを禁止する。  
作業者は適切な保護具（「8.ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。  
漏出物に直接触れたり、その上を歩いたりしないこと。  
換気を行うこと。換気が十分でない場合は、呼吸器を着用すること。

### 環境に対する注意事項

周辺環境に影響がある可能性があるため、製品の環境中への流出を避ける。

### 封じ込め及び浄化の方法及び機材

危険でなければ漏れを止める。容器を漏出場所から移動させる。  
少量の場合、水溶性であれば水で希釈して拭き取る、又は乾燥した不活性物質に吸着させて廃棄容器に回収する。  
大量の場合、下水処理場で処理する。又は、不燃性の吸収剤（砂、土、バーミキュライト、珪藻土等）に吸着させて廃棄容器に回収する。  
取扱いや保管場所の近傍での飲食の禁止。  
すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。  
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

---

## 7 取扱い及び保管上の注意

---

### 取扱い

技術的対策

「8 ばく露防止及び保護措置」に記載の措置を行い、必要に応じて保護具を着用する。

安全取扱注意事項

飲み込まないこと。  
眼、皮膚、衣類への接触を避ける。  
蒸気やミストを吸入しないこと。  
使用しない時には、容器のふたを閉め、まっすぐに置くこと。  
空の容器に残余物がある場合があるので注意する。  
容器は再利用しないこと。  
熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。－禁煙。

接触回避 衛生対策	<p>容器を接地すること、アースをとること。          防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。          火花を発生させない工具を使用すること。          静電気放電に対する予防措置を講ずること。          この製品を使用する時に、飲食又は喫煙しないこと。          汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。          混触禁止物質          取扱い後はよく手と顔を洗うこと。</p>
--------------	---

## 保管

技術的対策	<p>保管場所には危険・有害物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な照明及び換気の設備を設ける。          静電気放電に対する予防措置を講ずること。</p>
混触禁止物質	強酸化剤、アミン
保管条件	直射日光を避け、乾燥した冷暗所に保管する。高温物を近づけない。混触禁止物質、飲食物を避ける。
容器包装材料	元の容器に保管する。 破損や漏れの無い密閉可能な容器を使用する。 ラベルの無い容器には保管しない。

## 8 ばく露防止及び保護措置

### 管理濃度

設定されていない。

### 許容濃度（ばく露限界値、生物学的指標）

ACGIH TLV-TWA (2016)	5 mg/m <sup>3</sup> （ミネラルオイル）
日本産業衛生学会（2016）	3 mg/m <sup>3</sup> （鉱油ミスト）

### 設備対策

取り扱いの場所の近くに、洗眼および身体洗浄剤のための設備を設ける。  
 高温下や、ミストが発生する場合は換気装置を使用する。

### 保護具

呼吸用保護具	必要に応じて保護マスクや呼吸用保護具を着用する。
手の保護具	製品を使用する際は常に保護手袋を着用する。
眼の保護具	眼に入る恐れがある場合、側板付保護眼鏡やゴーグルを着用する。
皮膚及び身体の保護具	必要に応じて保護衣、保護エプロン等を着用する。

## 9 物理的及び化学的性質

外観（物理化学的状态、形状、色など）	透明な液体
臭い	油臭
臭いの閾値	情報なし
pH	情報なし

融点・凝固点	情報なし
沸点、初留点及び沸騰範囲	情報なし 230℃ (0W20 SM)、 205℃ (80W90)
引火点 (COC 式)	204～245℃ (5W30 SM、5W30 SN) 204～245℃ (10W30 SM、10W30 SN)
蒸発速度	情報なし
燃焼性	情報なし
燃焼範囲の上限・下限	情報なし
蒸気圧	情報なし
蒸気密度	情報なし 848 kg/m <sup>3</sup> (0W20 SM) 853 kg/m <sup>3</sup> (5W30 SM)
比重 (15℃)	853 kg/m <sup>3</sup> (5W30 SN) 855 kg/m <sup>3</sup> (10W30 SM、10W30 SN) 887 kg/m <sup>3</sup> (80W90)
溶解度	情報なし
<i>n</i> -オクタノール／水分配係数	情報なし
自然発火温度	情報なし
分解温度	情報なし 41.52 mm <sup>2</sup> /s (0W20 SM) 59.38 mm <sup>2</sup> /s (5W30 SM) 55.62 mm <sup>2</sup> /s (5W30 SN) 76.61 mm <sup>2</sup> /s (10W30 SM) 71.10 mm <sup>2</sup> /s (10W30 SN) 130.9 mm <sup>2</sup> /s (80W90)
粘度 (40℃)	

## 10 安定性及び反応性

反応性、化学的安定性	通常の取扱い条件下では安定である。
危険有害反応可能性	通常のと扱条件下では危険有害反応を起こさない。
避けるべき条件	熱、火花、裸火、他の発火源となるもの、酸化状態を避ける。
混触危険物質	強酸化剤、アミン
危険有害な分解生成物	火災等の場合は、毒性の強い分解生成物が発生する可能性がある。

## 11 有害性情報

### 製品の有害性情報

皮膚腐食性及び皮膚刺激性	皮膚を脱脂する。乾燥や痛み、ひび割れを引き起こすおそれがある。
--------------	---------------------------------

### 成分の有害性情報

#### 水素処理重パラフィン系石油留分

急性毒性 (経口)	ウサギ LD <sub>50</sub> > 15,000 mg/kg
急性毒性 (経皮)	ウサギ LD <sub>50</sub> > 5,000 mg/kg

## 12 環境影響情報

### 製品の環境影響情報

生態毒性	情報なし
残留性・分解性	生分解性があると考えられる。
生体蓄積性	情報なし
土壌中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	該当しない

## 13 廃棄上の注意

### 残余廃棄物

廃棄においては、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従うこと。  
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、または地方公共団体が廃棄物処理を行っている場合はそこに委託して処理する。

### 汚染容器及び包装

容器は関連法規制ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。  
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

## 14 輸送上の注意

### 国際規制

#### 陸上輸送（ADR/RID の規定に従う）

国連番号	該当しない
品名	該当しない
国連分類	該当しない
副次危険性	該当しない
容器等級	該当しない

#### 海上輸送（IMO の規定に従う）

国連番号	該当しない
品名	該当しない
国連分類	該当しない
副次危険性	該当しない
容器等級	該当しない
海洋汚染物質	該当しない
IBC コード	該当しない

#### 航空輸送（ICAO/IATA の規定に従う）

国連番号	該当しない
品名	該当しない
国連分類	該当しない
副次危険性	該当しない
容器等級	該当しない

### 国内規制

陸上規制情報	消防法に従う
--------	--------

海上規制情報	該当しない
海洋汚染物質	該当しない
航空規制情報	該当しない

緊急時応急措置指針（容器イエローカード）番号  
該当しない

**特別の安全対策：**

輸送に際しては、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

---

**15 適用法令**

労働安全衛生法	名称等を表示すべき危険物及び有害物（鉱油）（1重量%以上を含有する製剤その他の物） 名称等を通知すべき危険物及び有害物（鉱油）（0.1重量%以上を含有する製剤その他の物）
消防法	第4類引火性液体 第四石油類

---

**16 その他の情報**

参考文献

株式会社 MonotaRO 提供資料  
NITE GHS 分類結果一覧（2017）  
日本産業衛生学会（2016）許容濃度等の勧告  
ACGIH, American Conference of Governmental Industrial Hygienists (2016) TLVs and BEIs.

**【注意】** 本 SDS は、JIS Z 7253:2012 に準拠し、作成時における入手可能な製品情報、有害性情報に基づいて作成していますが、必ずしも十分ではない可能性がありますので、取扱いにはご注意ください。本 SDS の記載内容については、新しい知見等がある場合には必要に応じて変更してください。また、注意事項等は通常の取扱いを対象としたものですので、特別な取扱いをする場合には用途・条件に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。